

語源でたどるイスラム帝国の栄華

2015. 8. 03.

位野花 靖雄

英単語のシュガー・マガジン・キャンディ・オレンジ・コットン・シャーベット・・・
何れも私たちになじみのある言葉ですが、これらの単語の語源は何語でしょうか？
ラテン語でもフランス語でもありません。実はすべてアラビア語が語源なのです。

なぜアラビア語が語源なのでしょう？ シュガー（砂糖）の語源となった経緯をたどりながら、イスラム帝国（サラセン帝国）の隆盛の一端を振り返りたいと思います。

中東の気候変動

一万五千年前ヨーロッパ各地は厚い氷の下にあり、一方北アフリカ・中東地域では大量の雨が降り、草原を育て大地に恵みを与えていました。その後、氷河期が終わりヨーロッパを覆っていた氷が解け、気候変動で中東の乾燥が進み、森や草原が徐々にステップや砂漠に移行していきました。

乾燥が進むとともに良好な環境は徐々に悪化し、乾燥砂漠地帯へと移行していきました。文明の黎明期を迎えるころには、居住地域は大きく狭められることになりました。

貴重な水

中東・北アフリカでは年間平均降雨量が100ミリにも満たない地域が大半です。総じてどこでも水は不足がちであり、古来水を巡って流血の争いが絶えることはありませんでした。アカデミー賞受賞作品「アラビアのロレンス」で、井戸の水を巡っての争いでロレンスの従者が殺されるシーンがあったことを記憶されている方もおられると思います。

乾燥地帯となった中東では、水は何よりも大切なものとなりました。コーラン・ハディースでもその重要性については何度も触れられています。

聖典コーランでは「水から一切の生きものをつくったのである」*と水の重要性**に触れていますし、預言者ムハンマドは「水を他人に分け与えることは義務である」***と説き、イスラーム教徒にとり共通の権利であるとも説いています。

*聖クラーン 第21章30節：世界イスラム連盟

**オイルショックの時、我が国は原油を確保するために中東諸国に使節団を派遣しました。現地政府は経済関係の協力を再三口約束しておきながら実行しない日本の姿勢を批判して、雨（水）を使ったアラブのことわざで日本を批判しました。雨は砂漠の民にとって非常に大切なものなのです。

「言葉は雲。実行は雨」。

***イスラム水法では、公共の水源について以下のように優先使用順位を定められている：

1. ひどい渇きに悩まされている者
2. 井戸を掘った者
3. 旅行者
- ・・・
5. 井戸を掘った者の家畜
- ・・・

乾燥砂漠地帯になったことで、この地域では早くから灌漑農業が普及していきしましたが、イスラム帝国時代に農業・灌漑技術が飛躍的な進歩を遂げました。

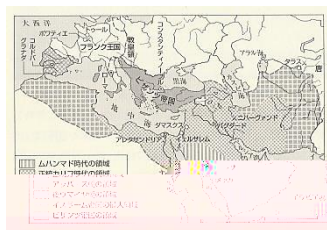
スッカル・

スッカルとはアラビア語で砂糖を意味します。英語のシュガーの語源*です。

*sukkar(アラビア語)→succarum(中期ラテン語)→zucchero(イタリア語)→sukre(古期フランス語)
→suger(中期英語)：英語語源辞典

なぜアラビア語が語源になったのでしょうか？

サラセン帝国は最盛期インドからイベリア半島まで勢力範囲を広げました。アラブ人は治世下にあったインドからサトウキビを持ち帰り、独自に開発した農業・灌漑技術を使って、地中海諸島（シシリー島）・イベリア半島でサトウキビを栽培し、大規模な砂糖生産を始めました。



イスラム帝国：山川世界史・山川出版社

アレクサンダー大王の東方遠征に同行した部下が「蜂のいない蜂蜜がある」と言及したと伝えられていますが、アラブ人がサトウキビを使って本格的に砂糖生産に乗り出すまでは、砂糖の存在を知らなかったのです。それまで西欧では甘味料として蜂蜜を使っていました。

西欧は十字軍遠征でようやく砂糖の存在を知り、蜂蜜に代わって砂糖を日常の甘味料として使用し始めたのです。「シュガー」の語源がアラビア語であるのは、このような経緯があるからです。

ルネッサンスの母胎

サラセン帝国は学問・芸術を奨励し、ギリシャ・インド・中国・エジプトなどの文明を吸収・融合して、化学・医学・天文学・文学・・・あらゆる分野で大輪の花をさかせました。

我々になじみのゼロの概念を取り入れた十進法アラビア数字も、この時代に誕生しました。

サラセン帝国の首都バグダードは人口150万人を超え、世界中から学者・文化人・商人が集まり、世界最大の「平安の都」として栄華を極めました。その隆盛は治世下のイベリア半島のコルドバでも同じで、当時パリは人口3万人弱の田舎町でしたが、コルドバは50万人余の人口を抱える大都会でした。

域内の交易も盛んにおこなわれ、バグダードで発行された小切手がモロッコで決済できるなどの金融システムも発達し、今日われわれが使っている複式簿記もこの時代に発明されました。

農業・灌漑分野では、どの植物・野菜がどの土壤に合うのか、薬草の研究・栽培など、実用的な研究・開発がおこなわれるとともに、井戸掘り技術・水時計・水車などの開発も盛んにおこなわれました。サトウキビだけでなく米・小麦・綿花・オレンジなどをインドから地中海地域に持ち込み、栽培を始めたのもイスラム帝国でした。農業の振興がイスラム帝国諸都市の膨大な人口を支えたのです。

ガリレオより6世紀も早く地球の自転の可能性を指摘する学者や、動物からヒトへの進化のプロセスを説く学者も現れました。

これらすべての知識や発明・発見はヨーロッパに引き継がれ、ヨーロッパ・ルネッサンスの母胎となりました。サラセン文化がなければ、ヨーロッパのルネッサンスは生まれなかったといわれる所以です。この時代、アラブ地域は間違いなく先進国で、ヨーロッパは後進国であり、米国はまだ歴史上名前さえ登場してこなかった時代でした。



磁石を使った羅針盤を発明し、航海・交易が盛んに行われました。広範なイスラム帝国内の物流・交流には、地図は大切な手段です。緯度・経度を正確に計算し、詳しい地図を作成しました。左は12世紀に作図された中東・欧州地図です。

時代は少し後の16世紀初頭のオスマン帝国時代になりますが、オスマントルコ海軍総督アハマド・M・ピリが描いた南極大陸の地図と、現在知られている氷の下の大陸とが寸分違わないことを取り上げ、世界的大ベストセラーとなったG. ハンコック著ノンフィクション「神々の指紋」のプロローグが思い出されます。

テロリスト達が跳梁跋扈^{ちやうりやうぼっこ}している現下のバグダードで、イスラム帝国繁栄の残照を探し出そうとするのは無理な話なのでしょうか・・・

薬草図鑑：薬草の処理方法・効用などが詳述されている。 ピタゴラスの定理を利用し、月との距離を測るなど天文学が発展した。右図は太陽系図



4 / 4

追記：「アラビアのロレンス」でベドイン族長役を演じ、アカデミー助演男優賞候補になったエジプト人オマール・シャルフ氏が、先月亡くなりました。83歳でした。精悍な顔つきの素晴らしい俳優でした。